

平成29年7月31日

なかな

手もつなごう

第131号

発行所 岡山市中区古京町1-1-17
公益社団法人岡山県栄養士会
電話 086-273-6610
FAX 086-273-6667

HPアドレス
<http://okayama-eiyo.or.jp/>

E-mail
jimu@okayama-eiyo.or.jp

編集 なかま
編集委員会
印刷 西尾総合印刷株式会社



栄養の日

たのしく食べる、カラダよろこぶ

8/4 栄養の日 8/1-7 栄養週間

8月20日(日) 10:00~15:00

岡山駅地下通路桃太郎観光センター前でイベントを行います。

栄養士会長として、日々、時々、想うこと

会長 森 恵子



「栄養士会活動をとおして、人の気持ちの機微を知ろう」

私ごとですが、久しぶりに会う人に言われることはただ一つ、「ようこえたなあ」。そこで、おやつを食べない、動くことを増やす、これがなかなか大変。おやつの誘惑にしばしば負ける。歩くと膝が痛くなる等々。もう一つ、高齢者のBMIの見直しがあり、しめしめ、BMI25を超えても、まあ27くらいまでは大丈夫、しかし、あつという間に27は超えました。

現役の頃、簡単に体重管理の話をしていました。今は、一方的にこちらの考えだけを伝える、こんなことはしないと思います。年寄りの気持ちがわからない、今の若い人は何を考えているのかわからない、顔はにこやかでも心で困惑の事も多いのではないのでしょうか。栄養士会には20代から80代の会員の方がおられ、お互いの交流は可能です。栄養士会のメリットを活用しましょう。

「めざせ、会員、1,850 !!」

明石海峡大橋やいくつかの瀬戸大橋は吊り橋です。ケーブルがあってこそその吊り橋です。1本のケーブルは2万を超える細いワイヤーを束ねてあり、細いワイヤーが集まって強い力を持つケーブルになっています。一人ひとりの管理栄養士・栄養士の力は微々たるものですが、その一人一人がそれぞれの思いをもって栄養士会に結集することで思いもかけない力を得ることができます。

まだまだ、未入会の管理栄養士・栄養士の方々があなたの周りにおられます。1,850名余の会員の時もありました。皆様方の周りにおられる管理栄養士・栄養士の方に呼びかけていただき、「めざせ、会員、1,850」やっつけていきませんか。

「いてもらいたい管理栄養士・栄養士」に!!

栄養士会では生涯教育等の研修等を行っています。管理栄養士・栄養士が専門職として日々進化を遂げて、定款にあるように県民の公衆衛生の向上に尽力し、それぞれの場所でピカッと輝く「いてもらいたい管理栄養士・栄養士」になっていきましょう。



副会長 坂本八千代

副会長2年目になりました。昨年は熊本地震の災害支援活動に始まり、日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DAT)のスキルアップセミナーにも参加させていただきました。(公社)岡山県栄養士会も岡栄DATの研修、糖尿病等資質向上のための研修など様々な研修が組まれています。総会にお越しいただいた小松日本栄養士会長から激励された地域包括ケアシステムに参画することが大きな課題です。地域ケア会議への参加も栄養の専門家集団として求められていることをしっかり自覚し、必要とされる存在になりたいと思います。そのためにも積極的に研修に取り組み、会員相互の連携を深めたいと思っています。大勢の会員の皆様のご参加をお願いいたします。



副会長 畑本 淑子

早いもので、副会長になって1年が過ぎました。栄養士会の仕事に関わって思うことは、管理栄養士・栄養士の皆様方が、医療・福祉・学校・地域それぞれの職域で頑張っていることです。それぞれの職域で「人」の健康を願い、日々、栄養指導や研究を積み重ねていると思います。これから管理栄養士・栄養士を目指そうと思っている若い人たちのためにも、今、管理栄養士・栄養士をしている私たちがお手本を示して行きましょう。



副会長 森光 大

早いもので、私が岡山県栄養士会副会長をさせていただき2年目になっています。2000年ごろから福祉事業部の役員や理事をさせていただく中、次のような姿勢でした。同じ「人」に対する仕事をしている各職域の管理栄養士・栄養士が同じ机で学び、病院から病院、病院から施設、病院から事業所、病院や施設から在宅、また病院から学校等、連携をするためのスキルアップや顔の見える関係の構築を目指すことが大事ではないかと。縦割り行政みたいに栄養士会がなっていないかと疑問を感じていました。

さらにNST加算や栄養マネジメント加算等が始まり、多職種と連携が必要な時代になっています。栄養や食事が大事なことをどう多職種にアピールするか?今までのシステムで出来ていないのであれば、何をやめて何を始めればよいか?イノベーションを始めなければなりません。時代が変われば、ニーズも変わります。時代に沿った役割のできる岡山県栄養士会を目指しましょう。

平成29年度公益社団法人岡山県栄養士会定時総会報告

真庭支部 藤田富美子

平成29年6月10日(土)公益社団法人岡山県栄養士会の平成29年度総会が岡山市北区オルガホールにて開催されました。森会長の「岡山県栄養士会員1,850名を目指しましょう」と言う開会あいさつに始まり、来賓の県知事、医師会長、県栄養改善協議会副会長の祝辞を頂戴しました。その後、岡山県知事表彰、岡山県保健福祉部長表彰、福田道子賞の表彰行事が行われました。表彰された皆様まことにめでとございます。これから益々ご活躍されますことを期待します。ひき続き定時総会が出席134名、表面票決880名を持って会員数の2分の1以上を満了し成立しました。第1号議案は審議の結果原案どおり承認及び可決され、次いで、平成28年度の事業報告のち平成29年度の基本方針、事業計画、予算についても審議されました。



続いて、日本栄養士会長で同志社女子大学教授の小松龍史氏の〈栄養士の将来が輝くために、今、なすべきことは〉といった講話がありました。管理栄養士・栄養士は法律によって作られ、法律によって動いているので、政策の変化に対応し社会的ニーズに合った動きをしないといけないこと、少子高齢化に伴い社会保障制度改革で医療制度、介護保険制度、年金制度等がいろいろ変化していることをよく理解しておかなくてはいけないことなどを話されました。栄養士会雑誌には、栄養士会のこれから進むべきみち、世の中の動きなど載せているのでぜひ読んで動向を感じとってほしいとおっしゃっていました。

午後からは岡山大学病院教授 四方賢一氏による「糖尿病性腎症の診断と治療の進歩～管理栄養士への期待～」と題した講演がありました。世界の糖尿病患者は4億人を突破し日本の患者数は、世界で9番めに多く、糖尿病腎症を発症し透析を受けている方が12万人いるそうです。

莫大な医療費を削減するためには、糖尿病腎症にならないようにすることはもちろん糖尿病にならないように啓発して行くことが私達に求められていると感じました。2016年栄養指導料増額の背景には医療費削減に向けてしっかりがんばるようと言われていた気がします。

講演終了後、小松会長を囲んで懇談会がありました。日本栄養士会は全国で5万人ほどの会員がいるが毎年5千人の会員が入会し、5千人が退会しているそうです。管理栄養士になると未来はひらけていると思い就職したら「こんなはずではなかった」と離職する若い人が多く、次は、管理栄養士・栄養士で仕事はしないと栄養士会を2～3年で退会してしまう現状があります。一人一人の会員を大事にして会員増につなげなければいけないといったお話がありました。多くの質問にも丁寧に答えていただき、会長のお人柄がうかがえる会でした。お忙しいなか栄養士会の発展にご尽力をつくされておられる小松会長のお話をきいていると時間があつと言う間に過ぎてしまいました。ありがとうございました。

最後に来年の総会には皆さんぜひ出席し、新しい風を取り込もうではありませんか。





受賞おめでとうございます

平成29年度受賞者名簿



○岡山県栄養改善事業功労

長年にわたり栄養改善事業に従事し、特に功労のあった栄養士に贈られます。

(1)岡山県知事表彰

受賞者	支 部
渡 邊 寛 子	岡山市
山 口 享 子	井 笠
福 田 佳 子	倉敷市

(2)岡山県保健福祉部長表彰

受賞者	支 部
佐 藤 幸 枝	倉敷市

○岡山県栄養指導業務功労

長年にわたり栄養指導業務に従事し、特に功労のあった栄養士に贈られます。

(1)岡山県知事表彰

受賞者	支 部
上 山 ひさよ	東 備
島 本 恭 子	東 備

(2)岡山県保健福祉部長表彰

受賞者	支 部
河 内 けい子	津 山

○福田道子賞

栄養・食育事業の普及浸透を図り、後継指導者育成のため有能な人材に贈られます。

受賞者	事業部名
眞 鍋 芳 江	研究教育
元 木 香緒里	福 祉



－福田道子賞を受賞して－【Mission使命】想いを料理で伝えよう

医療事業部 佐藤 洋子

「これ病院食ですか！！」

先日、当院栄養課に将来管理栄養士を目指す高校生が、見学に訪れた時の言葉です。

高校生の目はキラキラと輝き、私たちの嚥下食を見て、病院食の画期的な進化に感動する姿が印象的で、このワクワク感を大切に大事にしよう！と振り返る出来事がありました。

名誉ある福田道子賞を受賞しました昨年度は、現在の職場（病院）でちょうど20年目の節目を迎え、改めてこれまでご指導くださり、支えてくださいました皆様に感謝の思いでいっぱいです。

私は居宅ケアマネジャーの仕事で2年間経験し、住み慣れたまち、住み慣れた自宅で最期まで口から食べることがいかに大切かを目の当たりにしました。

その経験から、管理栄養士として嚥下食にかける想いはさらに強くなりました。

受賞したこの1年も、院内業務にとどまらず、積極的

に外部への嚥下食の普及に力を入れました。津山市在宅医療・介護連携推進事業（医療介護関係職員対象）において、約250食分の嚥下食弁当を作成し、食べていただき、嚥下食体験を実施しました。

また、高齢者活躍人材育成事業の家事援助サービス講習において、介護食の調理実習を実施しました。

嚥下食だけではなく、津山市企業とコラボし、サンビオマルシェに参加し、病院食を通じ、心と身体に優しい食の提案を実施しました。また、美作大学、当院クリニック医師と連携を図り、「みんなのカフェ津山」の講師として、糖質制限食について一般市民の方とカフェ方式で語り合いました。

こうして口から食べるという想いを、料理で伝えること…このことが私の使命であり、今後もこの支援が生きる喜びに繋がれますよう、管理栄養士として日々挑戦し続けたいと思います。



サンビオマルシェ (津山市企業とコラボ)



津山朝日新聞社
元旦特別号掲載(嚥下食お節料理)



津山市医療介護連携推進事業

福田道子賞を受賞後の1年間

地域活動事業部 細川 良子

1年前に思いもよらぬ福田道子賞をいただきましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

この1年間、福田道子賞を頂戴いたしました意味を考えてきました。受賞とともに理事、地域活動事業部長にも就かせていただき、私にとっては未知なることばかりで目まぐるしい1年でしたが、大きく分けて二つの取り組みがあります。

一つは地域活動事業部長として、研修会の企画・運営やイベントにおける相談、展示活動の運営に携わり、その中でも、新しい取り組みをしました。平成28年11月23日に地域活動事業部と福祉事業部、岡山県歯科衛生士会との合同で、歯科衛生士の講師からは「口の動きを観察する」を、歯科の栄養士の講師からは「子どもの咀嚼力向上のための食べ方観察と支援方法」として摂食実習を交えながら、研修会を行いました。地域活動事業部の会員は在宅栄養士や嘱託職員として行政で離乳食など子どもとかかわる仕事に従事している方も多く、私を含めて深く研鑽をしたいことと、地域活動こそ多職

域、多職種と繋がることが求められるので、このような形の研修会を実施しました。結果、定員超えで、地域活動を始め、公衆衛生、医療、福祉に、職種は栄養士、歯科衛生士、保健師、保育士と様々な職域の方にご参加いただきました。多職種で子どもの摂食嚥下を学ぶことで多職種と繋がる必要性の意義、面白さ、奥深さを得た、手ごたえのある研修会になりました。好評につき半年後の平成29年5月28日に再度、合同研修会を実施しました。この時は作業療法士の講師もお招きし、体の使い方から摂食嚥下への影響を学ぶ研修会も実施いたしました。

もう一つは理事として、JDA-DATリーダーとして岡山県内での災害時に対応する岡栄DATスタッフ養成を始めたことです。昨年と熊本地震でのJDA-DATとしての活動を踏まえての生きたスタッフ養成を目指しておりますが、何せ私も未熟者。会員の皆様、県民の皆様と一緒にいざというときにこれからも備えて参りたいと思っています。

食育推進全国大会 in おかやまに出展しました。

専務理事 竹内ひとみ

6月30日(金)7月1日(土)の2日間にわたり、「第12回食育推進全国大会」が岡山コンベンションセンターとジップアリーナの2会場で開催されました。

(公社)岡山県栄養士会はキッチンステージで「災害時にも活用できる料理法」としてバッククッキングを提案し、「どのくらい摂っていますか? 砂糖・塩・油」として展示を行いました。岡山県栄養士会ブースには2日間で251名の方が訪れてくれました。

キッチン
ステージ

「災害時にも
活用できる料理法」



展 示

「どのくらい摂っていますか?」
砂糖・塩・油



平成28年度 事業部事業報告

学校健康教育事業部 月本 妙子

平成28年度は、平成3年度より5年ごとに実施している「児童生徒の食生活、日常生活習慣等の調査」を行い、冊子にまとめました。「朝食調査」と「心の健康や体力等」を併せて調査することによって、岡山県下の児童生徒の食生活とそれに関連した課題を明らかにすることができています。また、各研修会は、食物アレルギーの対応について、衛生管理や食に関する指導の充実につながるような内容で実施しました。

平成29年度は、昨年実施した食生活調査のデータのさらなる解析・検討を進め、各学校で活かせるよう指導案や資料の研究をしていきたいと考えています。同時に日本栄養改善学会での発表も計画しています。また、夏季研修会には中村丁次先生を講師にお迎えし、栄養士として広い視野が持てるようご指導いただく予定です。

今後も、私たち栄養教諭・学校栄養職員に求められる職務の重責を感じつつ、児童生徒の健やかな成長のために頑張っていきたいと思えます。

公衆衛生事業部 吉岡千恵子

平成28年度は栄養指導のスキルアップを図るとともに、評価のできる公衆栄養計画が策定できるようになることを目的に研修を計画して行きました。

1回目は乳幼児期の口腔機能のアセスメント方法を理解し実践にいかせるよう、岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター 田尻絢子先生に、「乳幼児期の口腔機能の発達」についてご講演いただきました。

2回目には目的をもった活動を展開できるようになるため、兵庫県立大学 環境人間学部 伊達ちぐさ教授にご講演いただき「評価のできる公衆栄養計画の立て方」を学びました。

また、私たちの仕事は参加者を集めることから始まるものも多くあります。企画した講座のほとんどが定員オーバーとなる、「NPO法人男女共同参画おおた」理事長坂田静香氏に人が集まるチラシの作り方について教えていただきました。

平成29年度も引き続き、評価と実践に役立つ研修会を実施する予定です。

研究教育事業部 人見 哲子

平成28年度研究教育事業部としての活動は、新人会員に対して管理栄養士・栄養士の仲間づくり、情報交換により幅広い輪を広げることを目的とし、卒後1～2年の方を対象に新人交流会を開催しました。その主な内容は、①岡山県栄養士会について ②年会費の使い方 ③生涯教育研修会についてお話しさせていただき、その後、先輩管理栄養士からの手作りおやつ（麩ラスク・いきなり団子・黒豆シフォンケーキ）と飲み物で、交流会を行いました。新人会員17名ご参加いただき、先輩からの体験談、養成校からのメッセージ、情報交換を交えて始終和やかな雰囲気の中で会を進めることができました。アンケートを実施し、その中の意見として、「とても楽しく、ためになる交流会でした。」「Caféタイムが楽しかったです。」「恩師の先生とたくさんお話が出来てとても良かったです。」など、また今後についての意見として「同じような勤務先の人と話す交流会をしたい。」「今後3～4年目の会などもあればいいなと思いました。」がありました。そのほかにも多くの良いご意見をいただくことができました。今後もこのような交流会を開催したいと考えておりますので、一人でも多くのご参加よろしくお願ひします。

平成29年度は、岡山県が中国・四国ブロック研修会の担当となっています。川崎医療福祉大学において11月4日に開催予定です。またご案内いたしますので是非ご参加ください。



平成28年度 事業部事業報告

勤労者支援事業部 本多 佳代

平成28年度は、5月22日に薬膳を用いた糖尿病食の食事・糖尿病管理目標、8月21日に給食経営における衛生管理のリスクマネジメントの2回の研修をいたしました。

勤労者支援事業部はコントラクト会社（または委託会社）で勤務している仲間が多くなりました。仕事がひとり現場の方・仕事の話で共有したい方はぜひ栄養士の事業部研修・専門研修へ参加していただきたいと思いません。

参加することで情報を得て、友達を作り、お互いのレベルを上げていく事業部でありたいと思います。平成29年度の研修会は5月20日に「勤労者の生活習慣病予防対策や他職種との連携について学び業務に生かす」、8月26日は「健康な食事のスキルアップ研修会」を予定しています。

これからも、皆さんの要望にこたえていきますので声を届けてください。

地域活動事業部 細川 良子

平成28年度はイベント参加事業として、6月25日～26日「はぐくみ岡山・おぎゃっと21 in コンベックス」、10月15日「はぐくみ岡山・おぎゃっと in 倉敷」、9月24日「コープフェスタ2016」に関わった。

研修会としては、初の歯科衛生士会とのコラボ研修会を地域活動事業部・福祉事業部と共に11月23日に実施。内容は歯科衛生士（以下DH）より「口の動きを観察する」、歯科の管理栄養士である手塚文栄先生を茨城県よりお招きし「子どもの咀嚼力向上のための食べ方観察と支援方法」と題して、摂食実習を交えながら多職種での小児の摂食・嚥下について学んだ。

平成29年度事業計画

5月28日に好評につき2度目の研修会を実施。前回の研修会の内容をさらに深めるため作業療法士（以下OT）の方を講師にお招きし、乳幼児の摂食嚥下について、DH、栄養士の視点にOTからの視点も取り入れ、多職種連携の必要性を体感した。

イベント事業については昨年と参加イベントは同じであるが、取り組みを新たに予定。

医療事業部 市川 和子

平素は、医療事業部の活動に対しご協力いただき感謝申し上げます。

平成28年度は、診療報酬の改定があり栄養指導の対象となる疾患が大幅に拡大されました。これを受けて医療事業部では年度当初よりその説明会を開催し、日々の仕事をより有意義なものにするため努力しました。しかし、一方で経腸栄養剤にて栄養管理を行っている患者の食事療養費の削減があり大きな痛手となりました。医療事業部では例年の調査に加えこの実態について調べた結果、大半の施設でマイナス収支に転じていました。このような実態からして管理栄養士・栄養士の増員が困難な現状が浮き彫りとなりました。

さて来年は医療と福祉の同時改定があります。今後ますます高齢化する社会において国は、病院や施設でのケアから在宅に向けての姿勢を色濃くしています。そして、チーム医療の名のもと多くの職種の皆さんが鎬を削って生き残り作戦に転じています。平成29年度は、栄養士会も乗り遅れないようどんどん積極的に社会に向けて発進しないとイケないと痛感しております。皆さんが参加しやすい、参加してみたいと思うようなイベントや研修会を開催したいと考えております。ご期待ください。

福祉事業部 寺尾 幸子

福祉事業部は、毎年、栄養マネジメントに共通した研修を企画している。①「2015年版食事摂取基準のポイントから個々の基準値の算出～施設の基準値設定」「栄養ケアプランの考え方」など、自立支援の課題に24時間の生活をサポートするプランにつなげられる内容。②経口維持加算取得を図るため事例による演習を取入れた講義。③「安全な介護食」をテーマに「簡単かつ楽しめる調理」を賛助会員様から季節ごとにご提案いただき、付着性、凝集性、かたさなど嚥下食に配慮された各社商品の特徴と提供の工夫を調理実習形式で行い理解を深める（次回11月25日予定）。

今年度4月には、熊本県で被災された2施設の栄養士から「ライフラインや流通の停止から再開まで」「行動できる職員だけの食事提供」など即時対応を強いられた実際の声を聞いた。児童部会では、30年に改定される保育所指針に栄養士の専門性が発揮できるよう、スキルアップを目指した情報交換を継続している。



新見支部

新見支部 森 朋美

新見支部は、昨年度、訪問介護員資質向上のための研修事業を実施しました。

訪問介護対象者の病態を理解し、病態や症状に合わせた食事の提供ポイントを学ぶ講義は、糖尿病や高血圧等の病態を医療事業部の会員が、また嚥下困難や低栄養には福祉事業部の会員が講師をつとめました。訪問介護員の方とゆっくり話をする機会はこれまでほとんどなかったため、訪問介護対象者の方の食事や困っていることや食生活のことなどを、調理実習中や会食時に聞くことができ、よい機会となりました。訪問介護員の方から病気や症状について学べ、調理実習で調理のコツを知ることができ、勉強になったという声がありました。平日の開催ということもあり、参加人数が少なく残念でした。今年度は、支部活動の一つとして休日等に開催できたらと考えています。

また、この研修事業の取り組み紹介を、新見市在宅医療・介護連携支援センターが受託している団体が主催している人材育成研修会・多職種連携会

議で、医療・介護関係者に紹介しました。取組み紹介後には、グループワークで「低栄養を予防するためにできること」を参加者で話し合い、多職種の方のいろいろなアイデアや意見を聞くこともできました。

健康福祉まつりでは、例年恒例となっている体験型栄養教育システム「食育サットシステム」を使って、来場者の方が普段食べている又は食べたい1食の食事をフードモデルの中から選んでもらい、その食事内容のバランスや栄養はどうなのか小学生から高齢者まで体験して実感してもらっています。高カロリーの方、低カロリーの方、高塩分の方などいろいろな方に対してもっと良い食事内容にするための改善方法を一緒に考えたり、ワンポイントアドバイスをしています。

今年度は会員同士が今以上につながり、そして多職種の方とも連携し、地域の健康課題や健康づくりに貢献できるよう取り組んでいきたいと思えます。



高梁支部

高梁支部 片山 富佐子

スキルアップを目指して年間4回の研修会を実施しました。

平成28年度は、高梁市の健康課題である糖尿病の重症化予防を中心に吉備国際大学サッカーチームの栄養指導支援を行う計画から運動指導の研修も重視しました。



地域活動として街頭運動と病態予防教室を開催しました。

1 街頭運動

高梁市健康福祉のつどいに毎年参加し、骨密度測定や体脂肪測定を行い食生活改善に向け普及啓発活動を行いました。

2 糖尿病予防教室開催

高梁医師会、備北保健所そして高梁市と連携し糖尿病の重症化予防に取り組みました。



活動の課題
 会員増強が必要です。高齢者福祉施設に未加入の栄養士がおり、継続的に加入を促し、地域活動を活性化していきます。

第1回勤労者支援事業部生活習慣病予防研修会に参加して

勤労者支援事業部 藤井 悠子

5月20日(土)に(株)フーズMHにて生活習慣病予防研修会が開催され、参加しました。まず、「勤労者の生活習慣病予防対策の推進と確率・糖尿病編」と題して、岡山県栄養士会副会長の坂本八千代氏にご講演いただきました。

近年、20歳以上の糖尿病有病者は10人に1人から5人に1人と増加しており、中でも40歳以上の男女が顕著に発病しているそうです。働き盛りの勤労者への指導の大切さを痛感しました。特に勤労者に多い加齢、肥満、過食・偏食、運動不足、ストレス等の環境因子が問題となっているそうです。基本的な知識をわかりやすくお話いただきました。糖代謝異常の成因や2型糖尿病の病態、HbA1c値とBMI値の密接な関係について再確認することができました。特にHbA1c値とBMI値との関係では、BMI30以上の人が増加しており、BMI28~30の人は肥満が原因でむくみやすく、リンパの流れが悪くなっているそうです。エネルギーの摂り過ぎや、食塩の摂り過ぎに注意が必要です。また、便秘していると血糖値は下がりにくいそうです。血糖コントロールをするためには食事と運動の2つが大切で、生活習慣を細かく聞き取ったうえで、家庭で出来る事、継続できる秘訣を伝えていくことが重要になります。食事では大皿盛ではなく1人前ずつ盛り付けたり、コンビニの野菜(1袋100g)の活用や簡単な調理法などを提案します。運動においてはラジオ体操やストレッチ。

背すじを正して腹筋に力を入れて風呂掃除や窓ふきをする。生活の中での動きを増やすことなど実行可能な対策を一緒に考え提案します。

次に「委託会社における病院での給食管理・財務管理」と題して、村上脳神経外科内科医院に勤務の坂東浩美氏にご講演いただきました。近年は委託にされる病院が多くなっており、坂東氏は委託側(施設側)と受託側の両方を経験しておられ、苦労話もありお話が身近に感じられました。委託側も受託側もお互いに信用・信頼が必要で、コミュニケーションがないと何事も前に進めない。経験と例題をもとにわかりやすくお話いただきました。給食管理だけでなく栄養士も財務管理をしっかり知っておく必要がある。時代の流れとともに運営方針も変わり、限られた費用の中で高質なサービスを提供するためには、受け身の運営では立ちゆかなくなった。食事サービス要望の品質が下がらないように、提案する運営方針へ前向きに努力するように変化している。そして数字で表さないと信用してくれないとのお話でした。病院給食での食材管理、献立管理、食数管理、在庫管理について知ることができました。

勤労者支援事業部の管理栄養士・栄養士は病院、学校、保育園、福祉施設、工場、オフィスなどの委託現場に勤務する者が多く、内容も多岐にわたっているため職場に応じた自己研鑽をしていく必要があると感じました。



研修会報告～市町村栄養士研究協議会～

公衆衛生事業部 内田 雅子

私たち市町村に勤める栄養士は、市町村栄養士の相互の連絡調整、資質向上に努めて、住民の健康の保持及び増進を図ることを目的に市町村栄養士研究協議会を組織しています。

協議会では年数回研修会を開催し、スキルアップに努めています。

今回は平成29年5月30日に開催した、「乳幼児健診でのアレルギー対応について」の研修について報告します。講師に笠岡第一病院 林知子先生をお迎えしました。

アレルギーには症状が出る部位により、アレルギー性鼻炎や気管支喘息などさまざまな種類がありますが、今回は乳幼児健診世代に多い、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーを中心に話してくださいました。

アトピー性皮膚炎の治療は、薬物療法・スキンケア・悪化物質を減らす。の3本柱で、どれが欠けても治療はうまくいかないということです。

特に、アトピー性皮膚炎の主な原因は、皮膚のバリア機能が低下していることから、「汚れを落とす」「保湿をする」といったスキンケアの方法を丁寧に教えてくださいました。

また、食物アレルギーの面からも、今までは食物アレルギーは食物アレルギーに対する免疫の異常が原因と考えられていましたが、「皮膚のバリア機能障害があると、皮膚から食物アレルギーが侵入しやすくな

り、食物アレルギーになる。」といった新しい説があり、スキンケア（皮膚のバリア機能を高めること）の重要性を教えてくださいました。

市町村の乳幼児健診では、自分にアレルギーがある親から、子どもにもアレルギーがあるのではないかと不安で、離乳食をどのように進めたらいいのかといった相談を受けます。

また、今はアレルギーの症状は出ていないが、離乳食を進める前に、アレルギー検査を受けた方がいいのかといった相談もよくあります。

そういった私たちの仕事の様子を聞いた先生から最後に、病院でも、親が自己流で食物除去をし、乳児の体重を成長曲線に落としてみると、離乳食が始まったあたりから体重が減少していたケースが、栄養士による適切な栄養指導を受けたことで、順調に体重増加に転じた例を紹介し、「市町村での乳幼児健診では、早期にアレルギー疾患の発症に気づくことができます。正しい知識の提供や医療機関への促しなど、適切な関わりをもつことで、アレルギー疾患の進展を予防できるので、市町村の栄養士の活躍を期待しています。」とメッセージをくださり、知識の習得はもちろん、これからの業務の励みとなり、また自分たちの知識、技術の向上の重要性を再認識できた研修でした。



がん病態栄養専門管理栄養士を取得して

岡山大学病院 長谷川祐子

私は平成25年2月に日本栄養士会主催の平成25年度管理栄養士専門分野別人材育成事業モデル研修会に参加しがん病態栄養専門管理栄養士を2015年取得しました。がんは今や2人に1人はなる時代です。治療も日々進歩し死亡率は減ってきていますが、反面、抗がん剤等による有害事象(副作用)に苦しめられている患者さんが多いのも事実です。食欲不振、吐き気、嘔吐、味覚異常、下痢、便秘などが出現し、好きな食べ物も食べられなくなって

しまいます。現在、がん病態栄養専門管理栄養士として緩和ケアチームの回診やカンファレンス等に参加してメデイカルスタッフと情報交換し、患者さんが食べやすいように食事調整するなど、活動しています。患者さんが少しでも食べられ、笑顔になれるよう食事を工夫し、提供することが私たち管理栄養士の使命です。今後も研修で学んだことを生かし、患者さんのQOL向上に貢献したいと思います。

腎臓病病態栄養専門管理栄養士の資格を取得して

重井医学研究所附属病院 黒住 順子

平成27年度より腎臓病病態栄養専門管理栄養士の認定制度が発足されました。しかし、認定要件に「医療施設の入院ベッド数200床以上の病院での実務経験を有すること」とあり、要件をクリアすることができなかったため、私には受験資格がありませんでした。しかし、平成28年度にこの要件が外れ、私にとっての障害はなくなりました。資格を取得することは、これまで腎臓病に関する栄養指導や栄養管理に携わってきたことを認めてもら

えるチャンスと思い、受験することを決めました。受験のためにセミナーを受け、症例報告の提出をすることにより、必要な知識の再確認をすることもできました。

資格を取得してからは、今まで以上に腎臓病の予防や重症化の予防に貢献できるよう努めていきたいと思っています。今後、腎臓病病態栄養専門管理栄養士の資格取得者が増え、認知度が上がり、必要とされる専門職となることを願っています。

糖尿病病態栄養専門管理栄養士を取得して

川崎医科大学附属病院 倉恒ひろみ

第1回の糖尿病病態栄養専門管理栄養士を取得しました。

これは日本栄養士会が日本病態栄養学会と共同して糖尿病に関する広い知識と技能を備え優れた管理栄養士を社会に送り国民健康増進に貢献することを目的にできた資格です。個別行動として①糖尿病患者の病態をアセスメントし適切な栄養管理を提案 ②適切な論理的判断のもと、患者との良好なコミュニケーションを図る ③介護福祉施設との適切な情報交換を行う ④糖尿病患者や家族に対して、適切な個別的栄養管理を指導できる ⑤国内外の最新の栄養情報や臨床情報・ガイドライン等を活用できる ⑥合併症など異なるステージにおいても食事療法の向上に継続的に努力する心構えと姿勢を身につけることが目標とされています。

私は今まで糖尿病療養指導士、病態栄養認定管理栄養士を取得しており、さらに専門の資格をとる思い挑戦しました。学会発表や原著論文の筆頭1編等厳しい条件があり、その上東京での2日間の講習会、その後5症例の提出と筆記試験がありました。筆記試験も難易度が高く、久しぶりに猛勉強を行いました。なかなか時間も費用も大変でしたが、合格できた嬉しさは何ともいえず、試験を超えた達成感がありました。

今後は同じ資格を取得した方と共に地域への貢献をしたいと思います。現在取得した方は全国で50名程度しかおらず、県内にも存在していないと思われます。取得した方はぜひ専門的な視野で共に活動していきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

患者さまとの出会いから…『摂食嚥下リハビリテーション専門管理栄養士』を取得して

中谷外科病院 松本 英子

昨年8月、摂食嚥下リハビリテーション専門管理栄養士認定のための研修会に参加しました。研修の1日目を終えた夜、参加者の皆さんと夕食を食べながら、摂食嚥下に真剣に取り組むきっかけになった患者さんとの出会いを話しました。『食べる事が出来た食道がんの患者さんの事』『食事を開始した方が急変され、足が震えた事』『胃瘻の方が「隣の婆さんが捨てたパンを食べた事があるんじゃない。食べられんというのとはどんなに辛いかな。なってみ

にゃあ分からんぞ。』と教えられた事』等々がありました。

今を見つめ、何が必要かを考え自分に出来る事を一歩ずつ進めていく。そんな思いを持って全国で27名の摂食嚥下リハビリテーション専門管理栄養士が誕生しました。

「確かな知識」と「寄り添う心」、専門職としてこの2つの芯を太く、しなやかに育てていきたいと思っています。

はばたけ 栄養士

「さまざまな縁を通して」

株式会社セントラルフーズ 長谷川三菜



私は現在、大学を卒業し働き始めてから2年目の管理栄養士です。2年目とはいっても、私にとってこの1年は、まるで1ヶ月と言っても過言ではないほどあっという間の時間でした。そんな私は入社してからこの春までの1年間、中学校の

学校給食の現場で働き、たくさんの事を学ばせていただきました。食事を作り、提供し、それを口にして食事から喜びを感じていただく…そんな思いを伝え、感じていただくためには、当たり前な事です。まず何よりも安心・安全が必要不可欠であり、それは徹底した衛生管理の上で成り立つものだという事を学校給食だからこの視点から深く感じ、身を持って学ぶ事が出来ました。そんな環境の中での作業は、精神的にも体力的にもエネルギーを使うものでしたが、「美味しい」の言葉をいただけるだけで消費したエネルギー以上の達成感を体全体で感じられるものでした。これは学校給食の現場だけでなく、長期の休み期間中などに応援として向かった食堂や福祉施設等、異なる現場でも必ず共通する瞬間でした。それは、2年目となるこの春から異動になったことも園給食の現場でも感じている事です。

今、私が居るこの現場は本当に一からのスタート、立ち上げの現場でした。なにもかも新しい、真っ白な状態からのスタートに自分に関われるという事は大きな楽しみが込み上げてくるものでしたが、それと同時に、はじめての土地、はじめての立ち上げ、はじめてのこども園給食、とはじめての事だらけの状況に大きな不安も生ま

れるものでした。まだまだはじまりの段階にすぎない今、この楽しみと不安は私の胸の中で常に隣り合って存在しています。現場自体のベースを固めることや改善点はたくさんあり、その都度、変更や修正をしながら少しずつ、1食ずつ、前に進んでいる毎日です。ですが、そんな分からない事ばかりで試行錯誤の毎日の中でも前を向こうと思えるのです。それは、やはり働き始めてからの1年間、さまざまな現場でさまざまな視点から学ばせていただいた知識や思い出という宝物があるからだと思います。そして何より、私が悩んだり、躓いたりしながらも、どんな場面でも的確な助言をしてくださる先輩方や給食作りに関わっているすべての方々の協力によって、毎日を歩んで来られているのだという事を深く感じています。

このようにして、私の始まったばかりの管理栄養士としての時間は多種多様な現場を通じ、年齢、性別、健康状態など、対象の異なるさまざまな方々と関わらせていただける環境の中にあります。そこからさまざまな経験を得られ、学び続ける事の出来るこの環境に置かれている私は幸せ者であり、この様な思いを持つことが出来ました。それを感じられるのはさまざまな縁に恵まれて来たからだ実感しています。

そして、これまで出会えたすべての方々と繋がり遇えたこのありがたい「縁」、これから繋がり遇えるであろう「縁」から得る思いを、まだはっきりとしたイメージは描けていませんが、今度は私が「食事」を通して何らかの形でお客様へと返す、伝える存在となる管理栄養士になりたいと思っています。これが今の私の夢です。この夢に一步でも近づけるよう、1食、1日を大切に精進していきたいと思っています。

東洋羽毛 睡眠セミナー無料サービスのご案内

◆ こんなお悩みはありませんか？

- ・夜勤明け、体は疲労しているのになかなか眠れない。
- ・寝起きが苦手で起床時間ギリギリまで起きられない。
- ・睡眠時間は長いのに、眠りの質に満足できない。

◆ 睡眠セミナーを無料で開催しています。

東洋羽毛では「睡眠健康指導士」の資格を有した講師による充実したセミナーをご用意しています。

※東洋羽毛では、研修会や勉強会、学会でのコーヒーマスターサービスもご提供しています。お気軽にご相談ください。

＜睡眠セミナー実績＞

- ◇第20回公益社団法人日本介護福祉士会全国大会inとっとり
- ◇第47回日本看護学会 在宅看護学術集会
- ◇医療法人和風会 中島病院
- ◇医療法人社団あずま会 あずま会倉敷病院
- ◇社会福祉法人旭川荘 介護付有料老人ホーム結びの社ホーム
- ◇一般社団法人 岡山県助産師会
- ◇社会福祉法人あすなろ会 介護老人福祉施設美和あすなろ
- ◇社会福祉法人全仁会 複合型介護施設ピースガーデン倉敷
- ◇岡山県看護連盟玉野支部研修会
- ◇医療法人紀典会 北川病院
- ◇済生会吉備病院
- ◇社会福祉法人岡山博愛会 特別養護老人ホーム アダムスホーム
- ◇岡山県看護連盟新採用者研修 その他多数



東洋羽毛中四国販売株式会社 岡山営業所
〒700-0845 岡山県岡山市南区浜野4-3-37

～お問い合わせはお気軽に～
フリーコール 0120-224711



厨房紹介 社会福祉法人薫風会 介護付有料老人ホームもくれん

福祉事業部 佐藤 幸枝

当施設は、倉敷市の南西部連島地区にある、「介護付有料老人ホームもくれん」です。法人内には、特別養護老人ホームみどり荘を中心に、様々な事業所があり、合計391床を有しています。この厨房を含めると、全体で厨房の数は4つとなりました。こちらではサテライトサービスでの提供20食を含めた80食を提供しています。

(下処理室) 大きなパススルー冷蔵庫が設置され、下処理室と調理室を区切ることで、衛生面が保たれ、食品の受け渡しがスムーズになりました。

手洗いシンクはステンレス製で深いので肘までらくらく洗え、水が飛び散ることも少ないです。床は全てドライシステムで衛生的な作業管理を実現しています。

(調理室) 作業台には60cm以下の部分全てに扉を付け、収納スペースを確保しています。調理台は可動式で、必要に応じて位置を変更しながら盛り付け作業を行うことが出来ます。全体がコンパクトな設計なのでスペースを有効に活用し、効率的な動線を確保しています。立体炊飯器は最新式で少量炊きモードが有るので便利です。スチームコンベクションオーブン、フードプロセッサー、スタンドミキサーなど食材を調理・加工する機器も備えています。

(洗浄室) シンク内の汚れが少なくなるように固形物の廃棄にはペール台、味噌汁など液体の廃棄にはダストシンクを設置しています。クリーンテーブルも広い為、効率よく作業が出来ます。

そして調理面では利用者様それぞれの摂食嚥下機能に合わせた食事を提供しています。見た目でも楽しんでいただけるよう、様々な型などを活用し、美しい盛り付けを意識しながら、業務に取り組んでいます。

献立は、地産地消のメニューとして、連島れんこんなどの地元食材を使ったものやデミカツ丼・たまの温玉めし・蒜山焼きそば・ばら寿司などご当地メニューを取り入れています。

これからも衛生面に注意して、利用者様の生活の中心であり、毎日の楽しみであるお食事を“安全安心においしく”召し上がっていただけるよう努力していきたいと思えます。



下処理室



調理室

様々な型など



洗浄機



れんこんバーグ



理事会報告

平成29年度理事会報告

1. 平成29年4月22日

承認事項

- 1) 職務執行状況(会長・専務理事)承認
- 2) 新入会員、再入会員の承認
- 3) 退会賛助会員の承認
- 4) 平成28年度事業及び会計報告(審議後承認)
- 5) 理事辞任と常任理事変更の承認
- 6) 災害支援実施要綱変更の承認
- 7) 福田道子賞被表彰候補者の承認

審議事項

- 1) 平成29年度定時総会

- 2) 「栄養の日」事業
- 3) 各事業部・支部の内規
- 4) 講師謝金の見直し
- 5) アンケート協力

2. 平成29年7月8日

承認事項

- 1) 新入・再入会員承認
- 2) 支部・事業部規約の承認

審議事項

- 1) 平成29年度事業について

報告事項

- ・定時総会
- ・日栄総会
- ・食育推進全国大会

事務局だより

☆本年度管理栄養士国家試験に合格された方、おめでとうございます。管理栄養士番号を事務局までお知らせください。

☆平成29年度栄養士会費納入がまだの方は早急をお願いします。

「日本栄養士会雑誌」(旧「栄養日本」)や栄養士会からの文書が届かなくなります。

☆氏名・住所・勤務先・所属事業部・管理栄養士など変更があった方は、FAX、E-メールまたは葉書で事務局にお知らせください。転居されていると郵送物は届きません。

☆事務局の夏休みは、8月11日(金)～15日(火)

会員証が新しくなります。8月中旬以降に日本栄養士会から郵送されます。



昨年度より「なかま」の編集委員をさせていただいています。普段はなかなか来ることのない栄養士会事務局で作業をさせていただき、他の編集委員の方々と情報交換も出来て、とても良い経験になっています。「なかま」を通じて仲間の輪が広がっていくとうれしく思います。

編集委員 窪田 紀之

VEGETABLES & FRUIT
S・K FOODS

野菜・フルーツ

エス・ケー・フーズ株式会社

〒701-0165 岡山市北区大内田756-2(岡山県総合流通センター内)

TEL (086) 292-5020

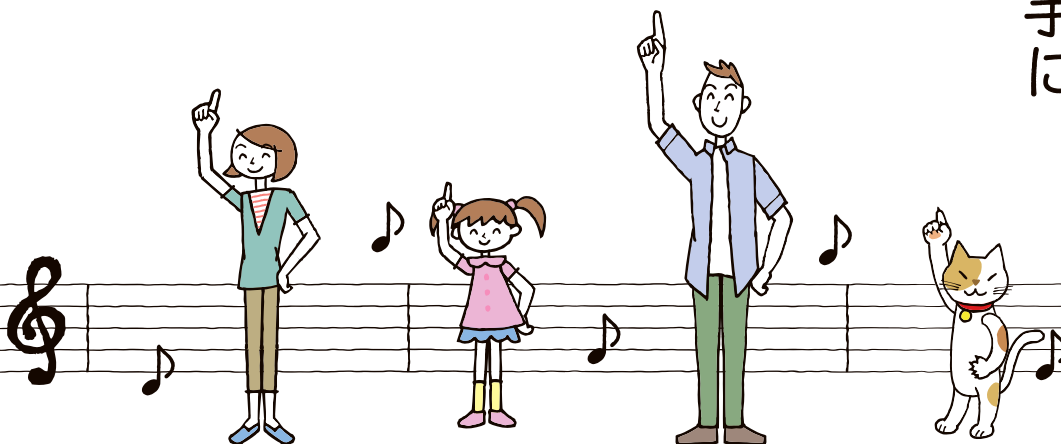
FAX (086) 292-5025

URL <http://www.skfoods.jp>

E-mail message@skfoods.jp



電気をムダなく
上手に。



♪ ~ しょうね 省エネ らるら ひと工夫



省エネひと工夫 エアコンの設定温度は28℃を目安に。

扇風機を併用するとエアコンの設定温度を上げても快適に過ごすことができます。

※エアコンの控え過ぎによる熱中症などにお気をつけください。

中国電力株式会社



中国地域を中心とした女性を対象

「ハーモニーネットクラブ」は、中国電力からエネルギーや原子力について様々な情報を女性の皆さまにお届けするクラブです。入会いただいた方にはハーモニーネット通信や、講演会等のご案内をお送りします。



会費無料!

新規会員募集中!



インターネットからご入会いただけます。
<http://www.energia.co.jp/harmony net/>



中国電力株式会社